

第35回(通算3034回)2025年(令和7年)5月13日号

## 本日の例会（5月13日）

「仕事で自分を磨く」  
(有)和光研磨  
代表取締役社長 阿部潤二 様

## 次回の例会（5月20日）

「食事がもたらす不思議な力」  
 関西福祉科学大学  
 副学長 峯松正敏 様

## 4月22日の例会報告

## 会長の時間

4月20日の日曜日、さざんかホールにおきまして、社会奉仕委員会の事業がございました。大和高田歴史ウォークと題して、150名近い参加者を得ましたこと、大変ありがとうございました。継続事業ではなく、初めて本年度の事業として試みたイベントでありましたが、ロータリアン各位の前日及び当日の周到な準備の下、挙行させていただき、怪我や事故もなく、大成功であったと感じております。

そして、吉岡委員長を筆頭に委員の皆様、並びにロータリーの友情で関係いただいたロータリアンの皆様、大変ありがとうございました。また、お渡しした参加賞では、木下会員のご厚意によりまして、参加者一人一人にお米1キロずつを、また大和ガス中井隆男会員より参加賞を入れるバッグを提供していただき、タオルやお菓子やお米、そしてハザードマップなどを入れると、パンパンに膨れ上がる程見栄えの良いものにしてくださいました。大変ありがたかったです。心からお礼を申し上げます。

## 幹事報告

◎あすかRC様による「「欲働」から「感動」へ繋がる  
ボタン～顧客満足はALL FOR YOUの精神から  
～」と銘打った、元全日本空輸客室乗務員の方の特別講演会が5月25日(日)14時から16時までかしはら万葉ホールにて開催されます。ぜひご参加の検討をよろしくお願いいたします。

## ◎休会のご案内

4月29日(火)、5月6日(火)

◎第11回定例理事会のご案内  
5月13日(火)11時30分 経済会館4階  
◎委員会別情報集会のご案内  
例会終了後 A班

◎さざんかホールで開催されました大和高田歴史ウォークにつきまして、本来であれば吉岡社会奉仕委員長からお礼を申し上げるところですが、本日お休みのため、私から代読させていただきます。

「このたび大和高田歴史ウォーク開催に当たり、多くの方々にご尽力いただきありがとうございます。無事盛況のうちに終わることができ、委員長として感無量でございます。多くの一般市民の方にご参加いただく活動のために、特に安全対策に気を使いました。そのため、大きな事故や病人も出ず、終了できましたことに一番安堵しております。

そして、多くの方々に助けていただきました。村井さんには学校関係やスポーツクラブチームへの取り次ぎ、吉川副委員長には、いろいろ細かな、クラブチームに対するアドバイスや相談にも乗っていただき、多くの参加者を得ることができました。堀内さんには印刷物の手配以外に、一般参加者の登録から運営全般に関わっていただきました。中井さんや木下さんからは多くの協賛をいただきました。事務局の方も備品の製作や受付などに奮闘いただき、当日の急な役割変更も文句を言わず引き受けていただきました。平岡さん、吉村定義さん、松村さん、ありがとうございます。挙げれば数えきれませんが、何よりも40名を超えるロータリアンが参加し、すべての方々が成功に向けてご尽力いただいたことが今回の歴史ウォークの成功につながったものと確信しております。今回の活動を通じ、私自身もよい経験をさせていただいたことに感謝し、お礼のご挨拶とさせていただきます。」

なお、高田歴史ウォークにつきましては、メイクアップの対象ですので、ご参加の方はご活用ください。

## 次年度幹事報告

4月19日(土)に地区研修会並びに第1回クラブアッセンブリーに参加していただきました方々、ありがとうございました。各委員長様方には、5月13日まで

## 4つのテスト〔言行はこれに照らしてから〕

1. 真実か どうか    2. みんなに公平か    3. 好意と友情を深めるか    4. みんなのためになるか どうか



に委員会方針並びに事業計画のご提出をお願いいたします。また、第2回クラブアッセンブリーを6月3日(火)に行います。

## ゲスト

片岡佳永様(㈱ダイワマネジメント)

## 誕生日祝

植野昭三会員(4月29日) 川中光教会員(5月 2日)

木下庄司会員(5月 5日)

## 結婚記念日祝

高橋正典会員(4月23日) 樫根正起会員(4月25日)

東辻英郎会員(4月26日) 松尾光至会員(4月26日)

吉田 暁会員(4月30日) 中井隆男会員(5月 1日)

桑 雅宣会員(5月 2日) 山田 博会員(5月 4日)

丸野正徳会員(5月 4日) 竹村恵史会員(5月 5日)

田中康正会員(5月 5日) 中堀克己会員(5月 5日)

船木克容会員(5月 8日) 吉村元嗣会員(5月 8日)

川村英亮会員(5月10日)

## 創業記念日祝

村野淳二会員(4月22日) 黒松 健会員(4月30日)

村井善治会員(5月 1日) 垣本喜巳会員(5月 2日)

## 退会のご挨拶

植田直穂会員

このたび異動発令を受けまして、本日が大和高田RC最終日となりました。明日から新しい店舗に参ります。檀原・大和高田支店の勤務は丸2年、その中でロータリーは約1年10か月参加させていただきました。とても貴重な良い経験をさせていただくことができました。曾祖父の故郷であり、祖母が育ち、父親が生まれた場所でお仕事をさせていただいたこと、そして皆様に出会えたことは、銀行勤務25年の中でも一番の思い出に残る、とても大切な2年間になりました。

ここで学んだ人と人とのつながりや、親睦、社会奉仕の精神をしっかり持って、これからも精進してまいりたいと思います。今後もおつき合いいただけると幸いです。大和高田RCのますますのご繁栄と、皆様とご家族のご健勝とご多幸を祈念いたします。本当にありがとうございました。

## 委員会報告及びその他報告

○高田地区情報集会 西田陽昭世話人

本日18時よりヴェルデ辻甚におきまして第2回高田地区情報集会を開催いたします。

○趣味の会委員会 垣本喜己委員長

先週、趣味の会ゴルフコンペについて、6月12日(木)と申しましたが、6月19日(木)花吉野カントリークラブで開催の間違いでした。ご都合を変更していただいて、多数の参加をお願いいたします。

## ニコニコ箱

・日曜日の「大和高田歴史ウォーク」には、吉岡委員長をはじめとする、社会奉仕委員会の皆様、並びにロータリーの友情でご参加くださいました皆様、心よりお礼申し上げます。 池木啓仁会員  
・ウォークラリー、皆様のおかげで無事に盛会となりました。ありがとうございました。 中井謙之会員  
・ダイワマネジメント片岡様、ようこそ当クラブへ。卓

話楽しみにしています。 丸野正徳会員

・4月20日の大和高田歴史ウォークの大成功にあたり、ご尽力いただきました、すべてのロータリアンに感謝申し上げます。本日卓話をいただきます、片岡さん、楽しみにしていたのですが、参加できずに申し訳ありません。近く、仲間入りしていただけますことを祈念申し上げます。 吉岡弘修会員  
・写真、懐かしかったです。頑張ってください。

中井隆男会員

・片岡様をお迎えして。 吉岡寛人会員  
・先日の地区職業奉仕委員長会議に、村井さん、川村さん、京都まで足をお運びいただき、ありがとうございます。 村島靖基会員  
・植田さんお疲れさまでした。新天地で頑張ってください。 鈴木勝士会員  
・植田さん、短い間でしたが、お世話になりました。

酒本良司会員

・植田さんお疲れさまでした。今後のご活躍をお祈りしています。 中井俊之会員  
・植田さんお疲れさまでした。新天地でのご活躍をお祈り申し上げます。 俵本和実会員  
・ちょっと良いことがありました。 船木克容会員  
・船木さんのイーグルを見せていただいて。ゴルフで船木さん、脇本さん、山下さんにお世話になりました。 下村敏博会員  
・80歳、傘寿お祝を頂きまして。 植野昭三会員  
・結婚記念日祝を頂いて。 樫根正起会員  
・お誕生日祝を頂いて。 木下庄司会員  
・歴史ウォーク欠席のお詫び。 村野淳二会員

## 卓話「日々感動を求めて」

(株)ダイワマネジメント

キャリアコンサルタント 片岡佳永 様

まず、本日は、これまでの私の半生をかいつまんでお話しさせていただきます。主人と結婚を決めましたのは出会ったその日でした。大手コンサル会社に新入社員として入社した1年目に、義理の父から呼び止められて、息子に会ってくれないかと声をかけられました。当時はおつき合いをしていた方もいましたので、面倒くさいなと一瞬思いましたけれども、無下にお断りもできず、一回会えば気も済むだろうと思って会うことにしました。

まず事前に、主人の顔写真をいただきましたが、その写真を見た瞬間に「あっ、縁があるかも」と直感で思いました。実際、八木の駅で会った瞬間、「結婚するな」と思いました。その日の帰り際には「あなたと結婚するように思います。けれども、私、今、おつき合いしている人がいるのでどうすればいいですか」と申しました。「僕も実は結婚してもいいかなと思った。そういうことなら別れるしかないのでは」と言われ、その日にお別れすることにしました。そして、次の週には式場を押さえに行きました。このように、一瞬一瞬の直感で選択していくのが私の人生です。

22歳でコンサルタント会社に入り、23歳で結婚しました。その後、3年間、京都の経営コンサルタント

会社に在籍しました。私は教育大学を卒業しておりましたが、大学4年間にアルバイトで子どもたちを教えるという経験を積み過ぎて、別の仕事がしたくなっていたのです。

在籍しましたコンサル会社は、かつて東証1部上場しましたベンチャーリンクという会社です。フードサービス業のFCの世界を台風のようにかき回していた会社としてご存じの方もいらっしゃるのではと思います。代表の秘書として働いてみますと、本当に分刻みでいろんな人と入れ代わり立ち代わり打合せがあり、代表が物事を瞬時に決断していく様を4年ほど見続けました。経営とは決断の連続だなと強く感じました。今でもすごい経営者だったなと思っております。

とにかく明るかったですし、怒るときは雷のごとく怒っていた方で、非常に分かりやすい社長でした。後に東証一部上場まで上り詰めましたがけれども、体を壊して退任されました。その後、その会社は新村上ファンドとして引き継がれております。

私は子どもを持ちたかったので、27歳で退職し、そこから2年ごとに3人の子どもを産んで、専業主婦として13年間、3人の子育てをしました。子育て自体が楽しくて、働くという選択肢はもはやなくなりました。

そんな中で、もう一つ私の転機となったのは31歳の出来事でした。3人目の子どもを産んで1年たったある日、シャープに当時務めておりました主人の上司から、主人には内緒ですよと言いながら自宅に電話がかかってきました。実は、主人をイギリスに赴任させようとしているんだけれども、家族帯同が原則で、奥さんが嫌ならこの話はご主人に持っていかないという電話でした。家族帯同でない、やはり海外赴任というのはうつ病を発症する確率が高いのだそうです。私も主人も英会話歴ゼロです。でも、何かおもしろそうだと思ったんですね。思った瞬間、何ら迷いなく、その電話で「行きます」と即答しました。すぐに5分後、主人からあわてて電話がかかってきまして、「どうやって1歳・3歳・5歳の子育てをするんだ」と。「僕は英語はしゃべれないし、何のフォローもできないよ」と言われました。私は「大丈夫、何とかなる」と。

ただし、住む場所は日本人がいないところ、子どもは日本人学校ではなくて現地校を探してくださいという条件を出しました。

すると、会社は日本人のほとんどいないウェールズ地方を用意してくれました。標識も英語とウェールズ語の2つの表記があるぐらい、本場のイギリスからかけ離れたようなところでした。私たちは町でもよく目立つ存在でした。初日に学校へ乗り込みますと、現地校は大騒ぎで、あっという間に子どもたちに取り囲まれて、上の2人は大泣きしました。担任の先生が飛び出してきました、私たちに何かを言うんですが、私は全く何を言われているのか分かりません。子どもたちは泣きながら私から引き離されていきました。

こんな感じで、イギリス生活は波乱の幕あけとなりました。日本で常識としていた生活様式は多くが崩れていきました。子どもが病気だということを学校に伝えるときに、普通ならsickとかillnessとかという英語を使うんですが、ウェールズではhe is poorlyと電話します。習った英語が全く使えない状況でした。子どもが病気になっても、まず病院に電話して予約を

取るというような方式でしたので、2日か3日後に行くまでには治ってしまうような、そんな医療の状況でした。ですので、子どもたちは7年間一度も病気で病院へ連れていったことはありません。

ただ、心配でしたので、日本を出国するときに、担当医の先生に、どういうときには絶対に救急に行かないといけないかということを教えていただいて、そしていざというときにはエマージェンシーに行く心構えでございました。

電化製品もよく壊れますし、壊れてアポイントを取っても、予定した日、時間には来てくれません。必ず2日以内には来られますので待つしかないという感じでした。

一旦、4年目で帰国命令が出ましたが、私はやっと慣れてきた頃なので、希望できるなら、ここに留まれるように主人にお願いし、後の3年間はイギリスの東部、ロンドンの近くに移って、子どもを土曜日だけ日本人学校に通って国語を学ばせて、平日は現地校に通わせることになりました。ここでは日本人もさすがに多くて、様々な交流がありました。

当時、イギリスの市場の魚は臭くて、日本人には人気がありませんでした。でも、皆さんお刺身を食べたがっていましたので、私はお刺身になるような魚を求めて市場を探し回りました。ある市場で新鮮なマグロとイカが水曜日に大量に仕入れられるというのが分かったので、毎週大量購入して、日本人にマグロとイカの刺身を販売して喜んでもらえるというささやかなビジネスをするなどしておりました。

そして、帰国後3年すると、ダイワマネジメントに強引に入社させられることになります。創業者からは、経理事務でも何でもいいから仕事を手伝ってもらえないかをお願いがございました。私は40歳までワードとかエクセルに触ったことがなく、事務仕事に何の興味、魅力も感じていなかったため、それだけは勘弁してほしいと断り続けました。たまたま当時のダイワマネジメントでは、国の委託事業を受けて職業訓練を行っており、毎日40人の失業者が弊社に通っておりました。私はこの方々と関われる仕事ならやりたいと言いました。できれば、何か事業をやらせてくださいとお願いして、講師をやることになりました。教えるテーマは、私が帰国してからの3年間に体験したことに関係いたします。

私の専門性と申しますと、国家資格となったキャリアコンサルタントと、産業カウンセラーという資格を持っております。2つの資格とも、社会で働く方々と向き合って、自分で行くべき方向性を決められるように徹底的に話を聞いていくプロとなります。この資格はダイワマネジメントに入社して、いろいろ試験を受けて取りました。

帰国して37歳から40歳までの3年間、子どもたちはまだまだ小学校1年、3年、5年生で育ち盛りでしたけれども、相変わらず、今ある世界とは別のおもしろい世界を探していました。ある日、新聞を見ていて目が釘付けになったことがありました。それは何かと申しますと、犯罪被害者支援員第1期生募集という記事でした。

これは奈良県警と奈良銀行が取り仕切っておりまして、犯罪被害者に徹底的に寄り添って、心の傷を癒すというボランティアです。実は私は9歳と20歳のときに2度の犯罪を受けた被害者です。20歳で受け